

自治体スタートアップ！持続的な発展を目指す 「サーキュラー都市・薩摩川内市」の実現



鹿児島県薩摩川内市



地域特性

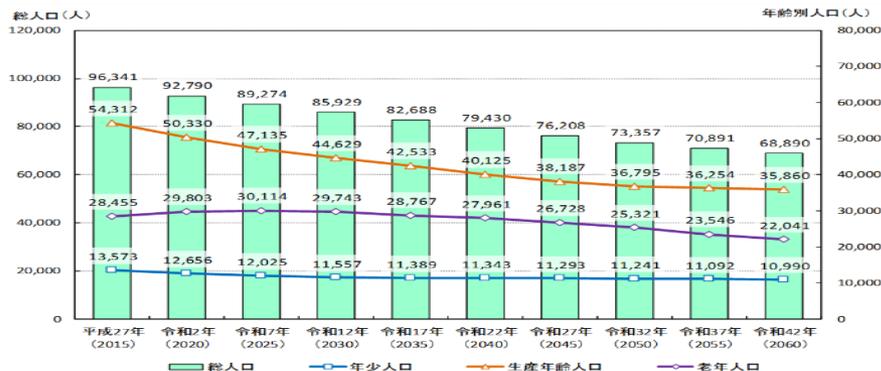
1 全国でも稀な広域合併により誕生した都市

- (1) 2004年10月に外洋離島（甌島）を含めた、全国でも稀な1市4町4村による広域合併により誕生（面積：約683km²。県内最大）
- (2) JR九州新幹線や高規格道路の整備に伴い交通利便性に優れるとともに、ラムサール条約登録湿地「蘭牟田池」を始めとするみどり豊かな山々や湖、地形の変化の美しい甌島など、多種多様な自然環境を有する都市



2 人口動態と将来展望

- (1) 特徴として、25～49歳の子育て世代の層が比較的厚く、14歳以下の年少人口の割合も全国よりやや高くなっている一方で、20～24歳の人口が極端に少ない。
- (2) 人口の将来展望として、「2060年の人口規模を68,890人」と目標設定し、本市人口ビジョンに基づき政策を推進



3 産業構造

- (1) 特に京セラ株式会社川内工場、九州電力株式会社、中越パルプ工業株式会社は、雇用の受け皿として大きな効果を発揮
- (2) その他の事業所は、ほとんどが中小企業

自治体SDGsモデル事業提案の「背景」と「取組の方向性」

今後取り組む課題

- SDGsに象徴されるグローバルな課題への対応（持続的発展とカーボンニュートラル）
- 人口減少、少子高齢化、安全・安心志向の高まり、価値観の多様化への対応

経済面

社会面

環境面

取組の背景

- ①SDGsの理念を踏まえた、新たな産業・ビジネスの創出と優秀な人材の育成や確保が必要
- ②2050年カーボンニュートラルの達成を見据え、従来の外部依存型の企業誘致施策の見直しが必要
- ③本市の地域特性や地理的優位性などを踏まえた、新たな産業の創出に繋がっていくことが必要

- ①特に「15～19歳」及び「20～24歳」層の転出超過が顕著であり、若者・女性子育て世代も魅力を感じるまちづくりが必要
- ②「誰一人取り残さない」、安心して暮らせるまちづくりが必要
- ③「安全・安心」に繋がる強靱な地域づくりに向けた取組が必要

- ①環境負荷の少ない再生可能エネルギーを、市民生活にも積極的に導入していく仕組みづくりが必要
- ②持続可能な生産・消費・廃棄の社会システム自体の見直しが必要
- ③人口減少・少子化に伴い閉校した小中学校施設の利活用を進め、快適な地域づくりへの取組が必要

取組の方向性

- ①循環経済産業都市への挑戦
- ②カーボンニュートラルへの貢献
- ③地域経済の活性化と雇用の確保

- ①若者・女性、子育て世代に選ばれるまち
- ②誰もが安心して暮らせるまち
- ③持続可能な地域づくり

- ①再生可能エネルギー活用によるカーボンニュートラルへの貢献
- ②リサイクル・リユースの推進
- ③持続可能な自然環境の保全

自治体SDGsモデル事業の概要

自治体スタートアップ！持続的な発展を目指す

「サーキュラー都市・薩摩川内市」の実現

川内港背後地を起点としたサーキュラー都市を実現するために、資源循環の社会システムのアップデート（更新）と循環経済産業の提案型誘致に取り組み、アフターコロナに向けた本市経済社会の未来像を具現化する。また、市民、事業者、地区コミュニティを始めとするあらゆるステークホルダーとの連携体制を構築する。

そのため、2022年度～2024年度までの3年間のリーディングプロジェクトを実施する。

【リーディングプロジェクト】

プロジェクト1

1 SDGs・カーボンニュートラル「経済チャレンジ」

プロジェクト2

2 SDGs・カーボンニュートラル「社会システムチャレンジ」

プロジェクト3

3 SDGs・カーボンニュートラル「環境チャレンジ」

プロジェクト4

※三側面をつなぐ統合的取組

4 SDGs・カーボンニュートラル「チーム薩摩川内チャレンジ」

自治体SDGsモデル事業の概要



プロジェクト1

1 SDGs・カーボンニュートラル「経済チャレンジ」



①川内港久見崎みらいゾーン開発事業

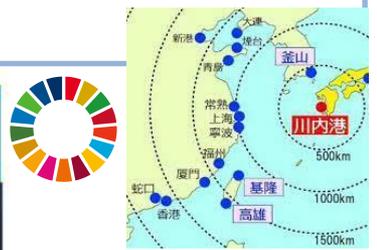


③循環経済産業都市プロモーション事業

④先端技術産業の育成・支援



至 鹿児島市



⑤川内港カーボンニュートラルポート促進事業



②川内港背後地利活用事業



至 北薩横断道路

自治体SDGsモデル事業の概要

プロジェクト2



2 SDGs・カーボンニュートラル「社会システムチャレンジ」

①地域子ども・子育て支援事業

子育て世帯の多様化する保育需要に対応するため、病児保育、地域子育て支援センター、子育て短期支援、延長保育、一時預かりなどに取り組む。

②障害者コミュニケーション推進事業

SDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会を具現化するため、本市手話言語等コミュニケーション手段条例に基づき、障害の有無に関わらず、全ての市民の意思疎通が円滑に行われるよう、手話出前講座、啓発チラシ、市情報の点訳・音訳に取り組む。

③女性活躍推進事業

働く場におけるジェンダー平等推進及び不安を抱える女性への寄り添った支援を行うため、セミナーの開催、女性活躍推進企業の認定及び表彰、つながりサポート型女性支援事業（生理用品無償配布など）などに取り組む。

④高校生みらいアドバイザー事業

持続可能で魅力的なまちづくりの推進に当たり、高校生の視点から必要な意見・助言を求めるため、「薩摩川内市みらいアドバイザー」として、希望する高校生に委嘱を行い、市が提示する課題の解決に繋がる政策提言を行う。高校生の段階で、まちづくりを切り口に「薩摩川内市」のことを探求することで、本市への愛着と郷土愛の醸成に取り組む。

⑤国土強靱化推進事業

市民の「安全・安心」を具現化するため、既存の社会資本の活用、人命を保護する観点からの関係者との合意形成、女性・高齢者・子ども・障害者・観光客等に十分配慮した取組、地域特性に応じた自然との共生、環境との調和及び景観の維持等に取り組む。



自治体SDGsモデル事業の概要

プロジェクト3

3 SDGs・カーボンニュートラル「環境チャレンジ」



①地球にやさしい環境整備事業

住宅におけるエネルギーの自立化や温室効果ガスの排出量を低減すること、災害に強いまちづくりを目的に、住宅用太陽光発電設備・蓄電システムの設置、ZEHの建築等に対して補助を行う。今後も補助内容の充実に取り組む。



②地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定事業

市全域の温室効果ガス排出量を把握するとともに、脱炭素社会の実現に向けて実効性のある施策に戦略的に取り組むため、地域の合意形成まで含めた、本市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定する。

③閉校跡地利活用事業

人口減少・少子化の進行に伴い、地域のシンボルである小・中学校が閉校している中、当該閉校跡地を利活用して事業に取り組み、地域の活性化に繋がる事業に対して各種支援を行う。



④SDGsフードロスに関する事業

市民生活に身近なフードロスに関して、飲食店等と連携した取組を展開することで、SDGsの取組の裾野を広げるとともに、市内の小中学校における学校給食の時間に「5・5運動」を行うなど、フードロス削減に取り組む。



⑤リユース品回収実証事業

川内クリーンセンターに搬入される粗大ごみの中から、リユースできる品物の選別を行い、ごみの減量化に繋がる実証を行う。



⑥プラスチック類資源循環実証事業

不燃ごみ収集で使用した指定ごみ袋を資源化することにより、温室効果ガスの低減に取り組む。

三側面をつなぐ統合的取組の概要（補助対象事業）

薩摩川内SDGsチャレンジ事業

～SDGsチャレンジを合言葉に、薩摩川内市の未来をつくる・まもる・はぐくむ～

2050年カーボンニュートラルの達成とSDGsを起爆剤とした持続的発展を両立していくため行政だけでなく、あらゆるステークホルダーと一体となり、SDGsを市民生活レベルの取組に落とし込みながら、チーム薩摩川内で取り組む機運醸成を行い、SDGsチャレンジを合言葉に本市の未来をつくり・まもり・はぐくんでいく。

【本事業の狙い】

1 市民一人一人が「主役（当事者）」となる仕組みづくり

- まちづくりの根源は、そこに住む「ひと」である。
- 経済・社会・環境の三側面における取組を進めるに当たって、「市民」が主役（当事者）の取組を行政が支援する仕組みづくりが欠かせない。

2 社会システム（ライフスタイルやビジネススタイル）の変革を起こす

- 2050年カーボンニュートラルの達成に向けては、市民生活、産業分野など、あらゆる分野においてイノベーション（技術革新や変革）を起こし、「サーキュラー都市・薩摩川内市」を実現することが不可欠である。
- あらゆるステークホルダーが、経済活動・社会活動の基盤である環境への意識を高め、行動することが重要である。

三側面をつなぐ統合的取組の概要（補助対象事業）

まちづくりの根源は、「ひと」

三側面における各種取組が、あらゆるステークホルダーと一体となった取組を実現する。



①SDGs普及啓発事業

市民生活に身近な「衣食住」をテーマに普及啓発を行い、SDGsを市民生活の中にも取り込み、「My SDGs」の取組を広げていく。

②SDGs官民連携プラットフォーム事業

2022年に構築し、あらゆるステークホルダーと連携した取組を企画・立案・実行しながら、自律的好循環を形成する。

③SDGs登録・認証・表彰制度

2022年に構築し、登録、認証又は表彰を受けた市内企業をPRすることで、企業間の新たな連携や新たな価値の創出、SDGsの裾野を拡大する。

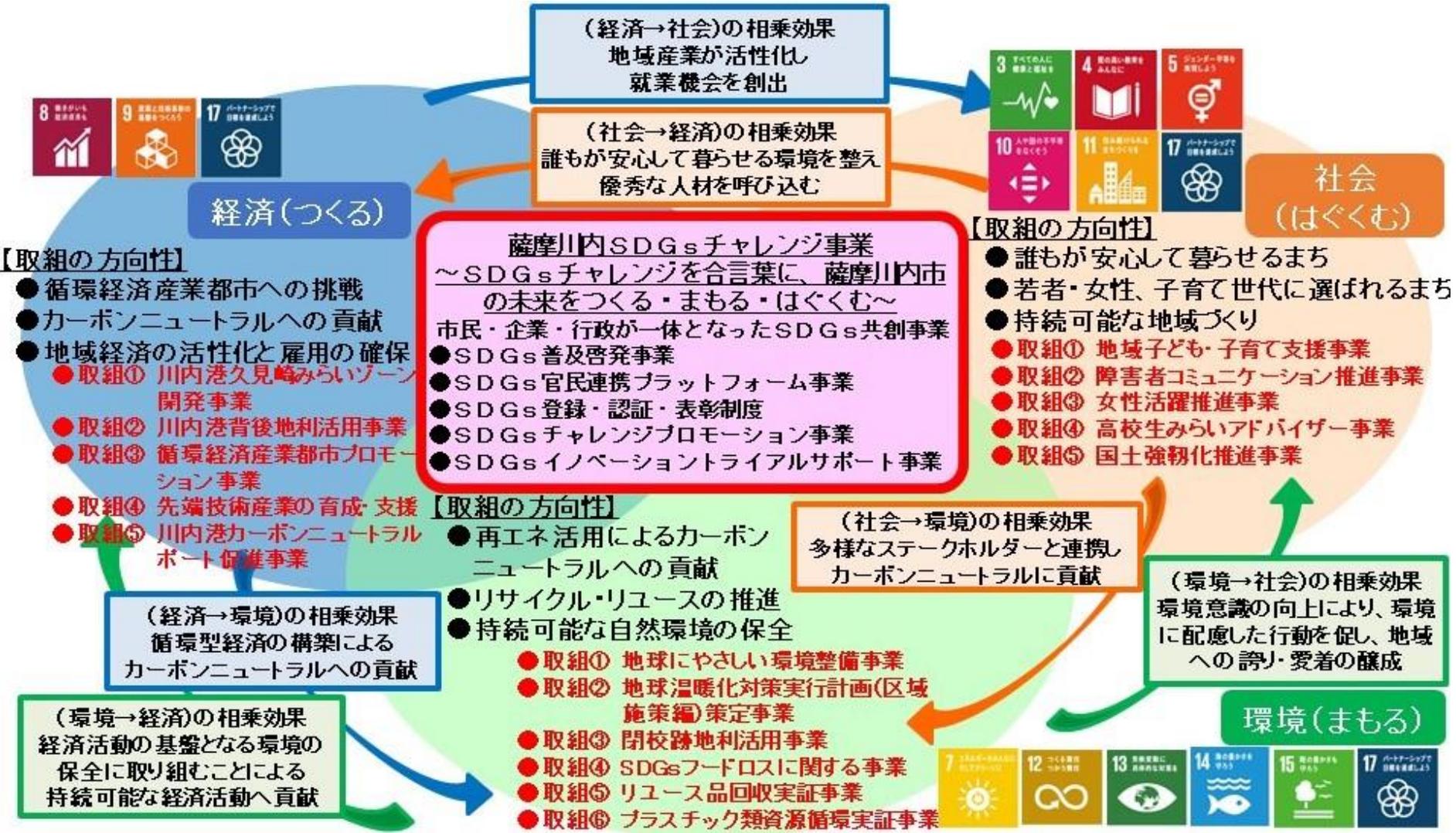
④SDGsチャレンジプロモーション事業

全国規模のイベントが鹿児島県で開催される際や、市ホームページ、公式LINEなどのSNSなどを活用し、市内外に本市SDGsチャレンジの取組を情報発信することで新たな仲間づくりに取り組む。

⑤SDGsイノベーショントライアルサポート事業

全国の意欲ある企業や創意ある企業等が本市を訪れることで、三側面への波及効果を生み出していく。

経済、社会、環境の各側面の相乗効果（統合的取組によって生じる相乗効果）



自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

1 経済面・社会面・環境面におけるサステナビリティ（持続可能性）の向上

- (1) 経済面では、「循環経済産業モデルへの移行」に取り組むことで、川内港臨海ゾーンを起点として、地域経済の好循環を生み出し、本市の持続的発展に繋げていく。
- (2) 社会面では「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、若者、女性、子育て世代、障害者など、市民福祉の向上に繋がる各種事業に取り組むことで、誰もが安心して暮らせるまちづくりを実現する。
- (3) 環境面では、再生可能エネルギーの活用やごみの減量化・資源化に取り組むことで、2050年カーボンニュートラルの達成に貢献していく。

2 あらゆるステークホルダーと一体となった「チーム薩摩川内」での取組実現

- (1) 三側面をつなぐ統合的取組により、市民、事業者、地域、学校など、あらゆるステークホルダーと行政が一体となり、市民一人一人が「当事者」として、SDGsやカーボンニュートラルを意識した取組を実現する。
- (2) 環境問題への対応は、日々のライフスタイルやビジネススタイルを改善し、継続していくことにより、問題解決に繋がっていくものであり、SDGsを市民生活レベルまで落とし込んでいくことで、「サーキュラー都市・薩摩川内市」の実現に向けた取組が自走した取組となる。



『持続可能で魅力的なまち・薩摩川内市』を目指して

世代を超えて
Present and
Future generations

すべての人が
Leaving no one
behind

自分らしく
In larger freedom

よく生きる
Well-being